

環境建築への旅

建築ジャーナル

2

2020年2月号
No. 1300

「環境建築を見に行こう」を合言葉に

『環境建築ガイドブック』が世に出たのが2007年末。

あれから12年。

その間に東日本大震災・原発事故があって

環境建築の思想と定義はどう鍛え直され、補強されたのか。

今こそ環境建築への旅が始まる。

〈特集〉

遠藤幹子
奥村一利
貝島桃代
坂田雅子
佐々木龍郎
清水 肇
中村 勉
古川 保
彦根アンドレア
宮崎晃吉
持留ヨハナ
八木敦司

アルミの家
石田敏明
曾我部昌史
Schenk Hattoriの仕事場

〈連載〉

五十嵐太郎
古川 保
松隈 洋
連 ヨウスケ
山川 陸
山崎 亮



アート+建築=？

神保町のギャラリー

『art gallery & Legion』の試み

の建築展を開催してきた。

中でも、昨年5月に開催したイベント「パブリックアートってなに？ パブリックアートと地域デザイン展」は独自の試みで、日本におけるパブリックアートの再考を試みた内容だ。

1960年代に日本でも見受けられるようになったパブリックアート。彫刻のあるまちづくりに代表されるように、これまでは「公共空間に置かれたアート」といった定義で語られることが多かった。しかしながら、建築・都市の中にただ数多く置かれたり、空間のデザインとしての場所性やストーリーがなく、近年では「彫刻公害」という言葉も聞かれる。そこには、本来アートがもつ役割がすっかり忘れられてしまったかのような印象さえ受ける。

イベントでは、パブリックアートへの概念が「公共空間に置かれたアート」から、「生活空間」とともにあるアート」といった広義な概念へと拡がりつつあるのではないかと、といったテーマのもとで、建築・インテリア・芸術の各界の専門家によるクロストークを

日常の中でアートに親しむ機会が増えている。医療施設や福祉施設などでアート作品が飾られているのをよく目にするようになった。まち中においても新しいオフィスビルやマンションのアプローチやエントランスといった空間にアートが設置されている場面にしばしば出会う。各地の芸術祭では自然景観の中に現代アートが一つの風景として存在する。

昨年夏、神田神保町に、art gallery & Legion(アートギャラリー・アンド・レジオン)を開設した。これまで一級建築士として住宅や医療施設・保育園などの設計監理業務に携わってきたが、併行してインテリアデザインも手掛けていたため、建物が竣工した際に建て主から「この空間に何かアートを置きたいので、合う作品を探してきてほしい」と頼まれる機会が幾度かあった。その度にギャラリーや作家を訪ね、建築空間とアート作品とをコーディネートしてきた。そうした体験から「建築とアートを結びつけることができる場があれば」と思い開設したのが「art gallery & Legion」だ。

当ギャラリーでは「暮らしにアートを」というテーマの下、「建築」と「アート」とのかかわりに着目し、両者が互いに高め合い融合できることをめざしディレクションを行っている。これまでに13回の個展と5回

行った。また交流会では参加者とともにパブリックアートについて考えた。加えて、近隣にある大学のデザインスタジオ演習における課題「アートによる地域と暮らしの活性化」の成果作品を展示。地域デザイン・地域コミュニティの活性化の側面からパブリックアートを考える機会としてまちの人をオーディエンスに招き、学生によるプレゼンテーションと講習会も開催した。

元来、アートの本質は「ものに意味をつくりだす」ことにある。

アートは場所に意味を付加してくれる。一方、建築に求められるものが「用の美」であるならば、アートには「感性の美」が存在する。アートは人々に美的感覚を与えてくれるだけでなく、作品に込められたメッセージや作家の意図するところを読み取るという感性を投げかけてくれる。

アートは、「場所」の中の一つのしつらえとして建築とともに空間を奏でる。それら両者が相まった時、人はその空間やその場所の豊かさをより身近に感じ、そこに自分なりの意味を見つけ、新しい価値を発見する機会を得ることができるだろう。そういう機会を増やすためには、パブリックなアートも建築・都市のデザインの一つと捉え、建築家や空間デザイナーの積極的な関与を期待する。

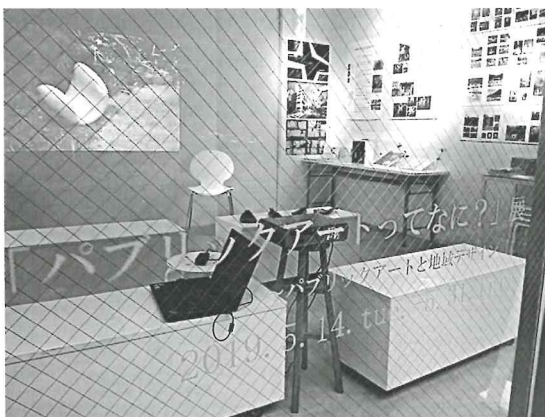
「暮らしにアートを…」 「生活空間をより楽しくより豊かに…」 建築とアートの両者が生み出す相互関係に期待を込め、これからも建築とアートを結ぶさまざまな機会を提供していきたいと思う。

三上紀子
一級建築士
art gallery & Legion 主宰



「パブリックアートってなに？」展のクロストークテーマ

- 第一夜 「映画の中のアート、日常の中のアート、ストーリーとしてのアート」
- 第二夜 「日本における1% for ARTの可能性について～韓国、台湾の法制化に学ぶこと」
- 第三夜 「生活空間とアート～いろ、かたち、素材」
- 第四夜 「都市／建築“場の意味を高めるART”の可能性について」



展示会場の様子